

車椅子バスケット、ネットで中継

自宅でもパソコン観戦

第44回北海道障害者スポーツ大会（北海道障害者スポーツ振興協会など主催）の一環として6日に網走管内美幌町スポーツセンターで開かれる車椅子バスケットボール競技会がモバイルライブ中継され、自宅にいながらパソコンで同時観戦できる。会場に行くのが難しい障害者仲間には画期的な試みといえそうだ。

【高橋正博】

同競技会は札幌、旭川、函館などの8チームが参加し、2カ所のコートで9試合を行う。中継は、1コートに2台ずつ計4台のビデオカメラで試合を撮影し、携帯電話で集める音声とともに金沢市の中継本部に送信。中継本部は画像と音声をミックスし、インターネットの専用ホームページ（<http://www.i-project.jp/basketball/>）で公開する。

美幌であす開催の競技会

1日に接続できる。試合だけでなく、車椅子バスケットボール日本代表の京谷和幸選手や女子強豪チームの「JALラビッツ」、全国の同競技ファンも登場し、テレビ電話付き携帯電話を利用して応援メッセージを送る。

モバイルライブ中継は金沢市の企画会社が04年に名古屋市、05年に横浜市で開かれた日本電動車椅子サッカー選手権で初めて実施した。選手の動きやボールのスピードが格段に速い車椅子バスケットでは、今回の取り組みが国内初。美幌町は、パチンコの太陽グループの資金協力を受け、同企画会社やNTT東日本、町内の町おこし団体らと準備してきた。

当初は試合の画像もテレビ電話付き携帯電話で撮影・送信の予定だったが、通信容量を超過することが分かり、ビデオカメラを使うことにした。

同町民生部の平井雄二・福祉主幹は「この中継方式は災害対応などにも活用できそうなので、検討したい」と話している。



02年に北九州市で行われた世界車椅子バスケットで優勝し大喜びする米国代表。道障害者スポーツ大会では車椅子同士で激しくぶつかる迫力満点の映像がモバイル中継される

毎日新聞

2006年8月5日(土)